

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：13101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770068

研究課題名(和文) 映画の幕末 = 明治維新表象に見る女性の位置付け 《唐人お吉》を中心に

研究課題名(英文) Women's Positions in Cinematic Representations of the Meiji Restoration

研究代表者

羽鳥 隆英 (Hatori, Takafusa)

新潟大学・人文社会・教育科学系・助教

研究者番号：70636026

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究4年間を通じ、以下の主要成果を得た。児玉章一監修/拙編『寄らば斬るぞ！新国劇と剣劇の世界』(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、2014年)を刊行した。博士学位論文を更新した拙著『日本映画の大衆的想像力 《幕末》と《股旅》の相関史』(雄山閣、2016年)を刊行した。李香蘭 = 山口淑子研究への新地平を開拓し、塚田幸光編『映画のジェンダー/エスニシティ』(ミネルヴァ書房、近刊)を分担執筆した。

研究成果の概要(英文)：The principal achievements of this four-year research project are as follows. First, under the supervision of Dr. Kodama Ryuichi, *The World of Shinkokugeki and Sword Fight Drama* was published in 2014. Second, *The Popular Imagination of Japanese Cinema, the updated version of my doctoral dissertation*, was published in 2016. Third, my article on Li Xianglan/Yamaguchi Yoshiko as one chapter of *Gender/Ethnicity of Cinema* has been completed.

研究分野：日本映画論

キーワード：映画 幕末 明治維新 女性

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始した学術的動機は研究代表者羽鳥隆英の博士学位論文『日本映画の大衆的想像力 幕末映画と股旅映画の相関史』（京都大学大学院人間・環境学研究科、2013年3月）を構成する幕末映画、すなわち近代日本の起点にも位置付けられる幕末＝明治維新を表象した劇映画に関する一連の研究成果である。明治維新60周年に当たる1928年前後に大人気を博した幕末映画は、佐幕派対倒幕派のように日本人同士の政治的闘争を焦点化しつつも、実際は「日本人は全て天災にも等しい欧米列強の植民地主義の犠牲者であり、黒船来航を契機に激化した日本人同士の闘争は、本来的には同程度に愛国的な同胞間の悲しむべき骨肉の争いである」との基本的認識を打ち出した。同時に日本人同士の闘争の不毛を説き、欧米列強の日本植民地化の回避を最優先する男性主人公には、政治的立場の異なる男性との間に（例えば倒幕派の主人公と敵対する佐幕派の政治家の間に）愛国的、同性社会的な絆が構築され、同胞間の対立を超克する契機が生じ得たのに対し、日本人同士の闘争（特に男性主人公に対する政治的立場の異なる登場人物のテロ行為）を主導する男性はしばしば女性性または幼児性が付与され、ジェンダー論的に男性主人公との差別化が図られた。以上の男性中心主義的な階層性に支持されつつ、昭和初年の幕末映画はわずかに60年前の出来事である幕末＝明治維新を感傷的に脱政治化し、国民国家日本の一体性を大衆観客に（再）認識させるイデオロギー装置の機能を果たした。博士学位論文は昭和初年に社会的影響力を確立した幕末映画が15年戦争の敗戦という国民国家的な破局を経験し、明治維新100周年に当たる1968年前後に気鋭の映画作家の手で革新を施され、21世紀初頭の現在に至るまで、如何なる変遷を遂げたかを解明した。同時に江戸後期＝明治維新期の博徒や流れ者を主人公に、幕末映画と前後しつつ昭和初年に大衆的人気を確立した股旅映画の隆盛が幕末映画と如何なる相関性を示したかを考察した。

監督＝映画作家論を中心に展開した日本映画研究にも近年は観客を取り巻く歴史的環境、演劇や寄席芸能などの隣接諸芸術との関係性などに対する関心が高まりつつあるが、幕末＝明治維新表象の社会的意義を体系的に分析した先行研究は皆無である。結果的に研究代表者の研究は国内・国外の映画学会で高評価を得た。また歌舞伎などの日本演劇学者を中心に、隣接諸学からの関心も幅広く集めた。しかし男性政治家を主人公に据えた幕末映画と相関的に並行する系譜、すなわち女性登場人物を主人公に幕末＝明治維新を表象した作例の系譜の研究は今後の課題に残された。以上の経緯にも鑑み、女性表象の新たな切口に設定しつつ、研究代表者の博士学位論文の深化を企図した。

実際、幕末映画の主人公の比重は圧倒的に男性中心であるものの、登場人物を京都祇園の女性達に限定した『花ちりぬ』（石田民三監督、1938年）、政治的闘争に巻き込まれた京都伏見の旅籠寺田屋の女將お登勢を焦点化した『螢火』（五所平之助監督、1958年）のように例外的に女性を主人公に据えつつ幕末＝明治維新を表象し、日本映画史に独自の位置を占める興味深い作例も認められる。この系譜は最終的に30%弱の高視聴率にも到達したNHK大河ドラマ『篤姫』（2008年）の大成功などに鑑みても看過し得ない（実際NHK大河ドラマは『八重の桜』[2013年]、『花燃ゆ』[2015年]と女性主人公の幕末物が相次ぐ）。本研究は、幕末に初代アメリカ合衆国総領事タウンゼント・ハリスの《洋妾》に選ばれ、苦難の生涯を過したとも伝わる《唐人お吉》物語に着目する。昭和初年1950年代を通じ、米国版も含め、何度も映画化された《唐人お吉》物語は幕末＝明治維新表象の歴史を辿り直すに際し、重要な位置を占めるはずである。

2. 研究の目的

近代の芸術である映画は、しばしば近代的国民国家の建国神話の表象を通じ、圧倒的な社会的影響力を発揮した。日本映画の場合も近代日本の起点にも位置付けられる幕末＝明治維新は常に重要な主題を提供し続けた。しかし幕末映画（幕末＝明治維新を表象した映画）への本格的接近は端緒を開いたばかりである。研究代表者羽鳥隆英は男性政治家が主人公の幕末映画の社会的意義を巡る先駆的な研究成果を完成させた。本研究は女性を主人公に幕末＝明治維新を表象した作例の社会的意義にも着目し、幕末映画と日本社会の関係性をさらに解明する目的を持つ。特に幕末映画が大流行を見た昭和初年以来、米国版も含め、何度も映画化された《唐人お吉》物語に着目する。

3. 研究の方法

本研究は映画的文テクスト分析と映画史的調査を方法の両輪に遂行される。具体的には以下のような博物館・資料館・研究所などに協力を仰ぎつつ調査を実施し、成果発信にも努める。なお結果的に(2)(3)(4)は研究期間に研究代表者羽鳥隆英が所属した機関である。

- (1) 東京国立近代美術館フィルムセンター
- (2) 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
- (3) 神戸映画資料館
(神戸映画保存ネットワーク)
- (4) 新潟大学地域映像アーカイヴ研究センター
- (5) 日本時代劇研究所

4. 研究成果

4年間の本研究を通じ、以下の主要成果を挙げた。

(1) 東京海洋大学で開催した日本映画学会第4回例会の研究報告「日本人李香蘭帰る被占領期の山口淑子をめぐる試論」(<http://jscs.h.kyoto-u.ac.jp/proceedings-reikai-4.pdf>)、神戸映画資料館で開催した2015年8月29日の公開講座「運命の歌姫 李香蘭」(<http://kobe-eiga.net/program/2015/08/1612/>)などを通じ、新地平を開拓した李香蘭=山口淑子研究を論文化し、塚田幸光編『映画のジェンダー/エスニシティ』(ミネルヴァ書房、近刊)を分担執筆した。被占領期に幕末映画の約束事を援用しつつ敗戦を表象したメロドラマ『わが生涯のかがやける日』(吉村公三郎監督、1948年)を焦点化しつつ、戦中期の李香蘭と戦後期の山口淑子の連続性に新たな光を投じた。

(2) 研究代表者羽島隆英の博士学位論文を更新した拙著『日本映画の大衆的想像力《幕末》と《股旅》の相関史』(雄山閣、2016年)を刊行した。本書は日本映画学会会報第47号に書評が掲載されたほか、2017年度も書評会も企画されるなど、真摯な学術的関心を集めつつある。

(3) 児玉竜一監修/拙編『寄らば斬るぞ! 新国劇と剣劇の世界』(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、2014年)を刊行した。日本の近代芸能史における幕末=明治維新表象に深甚な影響を与えた劇団「新国劇」を中心に据えつつ、女剣劇などの忘却された豊饒な世界にも多角的接近を試みた。本書は早稲田大学坪内博士記念演劇博物館企画展『寄らば斬るぞ! 新国劇と剣劇の世界』(2014年10月

2015年2月、児玉竜一監修/羽島隆英統括)図録である。また企画展に連動し、神戸映画資料館や新潟大学地域映像アーカイヴ研究センターに協力を仰ぎつつ公開講座を開催し、研究成果の発信の最大化に努めた。

なお本研究は直接・間接に関連する複数の競争的研究費獲得を通じ、折々に軌道修正を施されつつも、相乗効果の結果、予想以上の成果に到達し得た。獲得した競争的研究費は具体的には以下の通りである。

(1) 早稲田大学演劇映像学連携研究拠点平成28年度公募研究「淡島千景資料の多角的研究 宝塚・映画・五輪・野球」。

(2) 京都大学平成27年度「総長裁量経費人文社会系若手研究者出版助成」。

(3) 早稲田大学平成26年度特定課題研究助成費「脱占領期の独立プロ映画『唐人お吉』をめぐる多角的研究」。

(4) 早稲田大学平成25年度特定課題研究助成費「映画作家篠田正浩研究 松竹大船撮影所入社から『心中天網島』まで」。

(5) 早稲田大学演劇映像学連携研究拠点平成25年度公募研究「上山草人資料を活用した日米露の比較映画史研究」。

以上の競争的研究費との直接・間接の連動に加え、研究代表者の主要な所属先(1年目・2年目は早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、3年目は神戸映画資料館(神戸映画保存ネットワーク)、4年目は新潟大学)変更を通じた研究への視野拡大の恩恵を蒙り、当初の研究計画よりも1年早い研究3年目に単著を刊行したほか、李香蘭=山口淑子研究への新たな方向性も見出し得るなど、予想以上の成果に到達し得た。

5. 主な発表論文等 (研究代表者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計4件)

(1) 羽島隆英「日本人李香蘭帰る 被占領期の山口淑子をめぐる試論」日本映画学会、2015年6月20日、東京海洋大学(東京都港区)、<http://jscs.h.kyoto-u.ac.jp/proceedings-reikai-4.pdf>

(2) 羽島隆英「配役を夢想する 植木金矢の剣劇漫画への映画史的接近」日本映像学会、2015年5月30日、京都造形芸術大学(京都府京都市)。

(3) 羽島隆英「新国劇の映像学 新宿コマ劇場の連鎖劇」日本映像学会、2014年6月7日、沖縄県立芸術大学(沖縄県那覇市)。

(4) 羽島隆英「Hasegawa Shin Series amid the Hegemonic Transition from Cinema to Television」国際映画会議 Kinema Club XIII、2014年1月17日、ハーバード大学(ボストン・アメリカ合衆国)。

〔図書〕(計3件)

(1) 塚田幸光編著/羽島隆英分担執筆、ミネルヴァ書房『映画のジェンダー/イデオロギー』2017年(予定)頁未定。

(2) 羽島隆英著、雄山閣『日本映画の大衆的想像力 《幕末》と《股旅》の相関史』2016年、全198頁。

(3) 児玉竜一監修/羽島隆英編著、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館『寄らば斬るぞ! 新国劇と剣劇の世界』2014年、全128頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

(1) 児玉竜一監修/羽島隆英統括、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館企画展『寄らば斬るぞ! 新国劇と剣劇の世界』2014年10月2015年2月。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

羽鳥 隆英 (Hatori Takafusa)

新潟大学・人文社会・教育科学系・助教

研究者番号：70636026